

平成 27年 7月 10日(金) お泊り保育 1日目

★おはよう！

一番乗りは RT。「ねえ、お泊まり何日するの？」と、スタッフに尋ねる。「3回も4回も泊まりたい！」と、やる気満々！みんな、わくわくが止まらず、畳の上を転げてみたり、走ったり。ぬいぐるみを寝かせてあげている毛布の上にごろりんと横になってみたり…！

今年は病気で 2 人が欠席。男児 6 人の小所帯。14 時までは通常活動とあって、小さい組 9 人も一緒に行動する。今日の活動は、6 月にした田植えのその後の作業、稲の生育チェック、周辺の里山フィールドでの生き物採集や観察、川遊びなど。小回りのきく規模なので、冒険的要素や主体的な活動を柔軟にかつふんだんに取り込み、今までにない内容構成で計画した。そんなこともあり、お泊り組 6 人の里山フィールドまでの移動は、公共バス利用。途中、乗り換えがあり、乗り換えのためのバス停移動も必要で、その距離は大人の足で 7 分程度と、やや遠く周辺道路は交通量も多い。バスは本数がほとんどない上、スケジュールがタイトで、途中、忘れものやトレイ、ケンカやバディが決まらない等、小さなアクシデントでも、致命的な乗り遅れになりかねない。さて、最初の難関。今年の男衆 6 人組は、どう乗り越えていくのか…。

★バス乗りチャレンジ

車で移動の小さい組に見送られて、ピンクハウス(森のようちえん拠点)をでたお泊り 6 人組。バス停へ向かう道で「この間の近道いくの？」と TM。以前、ピンクハウス周辺の探検に行った際、バス停のある大通りまでの近道を発見した。その道のことを言っていた。「その道は、帰りに通ろう。」とスタッフ。いつも通っている旧駐車場から抜ける道の方が、バス停には近いのだ。

旧駐車場から裏道を抜け、大通りへ。バス停は反対側。横断歩道を渡らなければならない。信号ボタンを押すのは、先頭だった KT。手を挙げてみな上手に渡る。『新堀』のバス停に着いてしばらくすると、「吉田インター行き」が時間通りにやって来た。はやる気持ちで乗り込み、最後尾の席一列に座る。窓の外を眺めたり、友だちと小声でおしゃべりと楽しく過ごすバスの中。とりあえず無事、中継バス停の『吉田インター前』で下車！

降りたところに雑草が生えていて、ちぎってみる RT。すると、断面から白っぽいものが…。「ミルクだ〜！」と、大喜び。TM、KR も「どれ？どれ？」と探し始める。さすが森の子たち(笑)。と、とたんの大粒の雨！近くに屋根は…と周囲を見回すと、体よくガソリンスタンドがあった。

「ちょっと屋根に入らせてください」と、スタッフ。「お邪魔します」と、子どもたち。雨具をリュックから出し、自分たちで着る。ファスナーを閉めるのに手こずる、YS と IT。何度か挑戦するも上手いかず、「ファスナーしてください」とスタッフに助けを求めた IT。YS は年長としての意地か？時間はかかったが、自分でやり遂げた。

ガソリンスタンドのお兄さん達に「ありがとうございました！」とお辞儀をして出発。その頃には小雨に。目指すは次のバスに乗るための、『宮之浦神社前』。粛々と歩く。間を空けずに、車道に近寄らず。何しろ、次のバスの時間がある。再び横断歩道。ここで信号ボタンを押すのは、

YS。「こっちみて！」と、カメラを向けるスタッフにキラリとした表情を向ける。

渡り終えた先には、バス停の由来になっている神社がそびえたつ。鳥居前でごあいさつ。その頃には、空も明るくなり、暑くなってきた。さっき着たばかりの雨具をまた脱ぐことに。大忙しだ！しかし、屋外での活動は、体力を維持するためにも、この脱ぎ着がとても大事。特にこの6月は嫌になるほど訓練を重ねてきた子ども達。面倒くさがる子は、一人もいない。IT もいつものように、丁寧に脱いだ雨具をしまった。

身支度を整えながら、ついでにひと休み！おやつ♪おやつ♪おやつ♪と、口をあけて準備していたら、車道を走る車から「お～い♪！」の聞きなれた声。車に乗った小さい組だ。「お泊り組さん、がんばって～！バイバイキ～♪」と、かわいい声援(笑)が道路を横切る。お泊り組も大きく手を振り返す。小さい組に会えたうれしさと、ヒミツのおやつが見つかったかとドキドキ！おやつは、大好きなグミ。オレンジ、マスカット、アップルのお味。さあ、小さい組の車が去ったのを確かめて、再び目をつむって、口を開けて…！ぱくり。目をぎゅっつつむって、大きく口を開ける姿は、まるでツバメの子のよう(笑)。一人ひとりのその表情に、思わず笑みがこぼれるスタッフ。ヒミツのおやつを終え、神社に『お邪魔しました』のご挨拶をして、向かい側へ横断歩道を渡る。

渡った先のすぐ横には、中古車販売店がある。「こんにちは！」と、子どもたち。「もしかして…」と、店員さん。「はい、森のようちえんです」とスタッフが答えると「ああ、やっぱり！」と、ご存じの様子。どうやら、昨年のアドベンチャークラスでも通りかかったことを覚えていて下さったみたい。うれしい！！すると、「お仕事、頑張ってください！」と、YS。優しい気づかいと言葉をかけられるところがYSのいいところ。こんなふうにする姿を見せてくれた彼によく話すこと、「YSの『Y』は、“優しい”のYだもんね」。照れくさそうに笑っていた。

中古車屋の先の『宮之浦神社前』のバス停に到着。しばらくすると、予定通りバスが来た。クレーンが聞いていて涼しいバス内に、スタッフも子ども達もとりあえず、安堵。降車ボタンのそばに座っていたITに、押す係をお願いした。「『次は二本松』って、言ったら押してね。」と、スタッフ。二本松は、6つ先の停留所。だが、バスが一つ目の角を曲がったら、さっそくスタンバイするIT。勢い余って押しちゃう?!というくらいの意気込み(笑)なので、「まだまだ先だから、大丈夫よ」「次だよって、ちゃんと伝えるからね」と説明する。「うん」とうなずいたI。以前、近所の公園に園外活動ででかけた時、渡る予定ではない信号ボタンを、衝動に勝てず押ししてしまったIT。『ボタンは、渡る時だけ』『バスのボタンは、降りる時に押すもの』と、今回はしっかり理解し気持ちをコントロールできている。近くなるまでしっかり座って待っていたら、その間ボタンをじーっと見つめながらだった(笑)。ボタンを押せたときの嬉しそうな表情が何とも言えず愛くるしかった。

★田んぼ訪問と川遊び

ITの降車コールで、お泊り組は『二本松』で降りて、田んぼまで歩く。車3台で移動した小さい組は、それより前に現地入りし、トイレを済ませ、車の屋根の下で雨宿り。時折ゴーゴーと音をたてて降る強い風交じりの雨に、
「自然ってすごいね…こわいね…」
「でもみんな一緒によかったね♪」「うん♪よかった、よか

った」「大きい組は大丈夫かなあ」「にじ、でるかなあ」「にじ、見たいねえ♪」…くつつきながら、それぞれ思いにふける。6月の豪雨の毎日。雨の怖さは存分に体験した子ども達。濡れるのではなく、打たれる、打たれ続けることの恐怖は、生き物なら本能的に虫だろうが鳥だろうが、子どもだろうが大人だろうが皆同じ。振り返れば、今年はそんな原始的なことを毎日実感するほどの雨・雨・雨だった。雨をしのげるだけで、不安は大きく減少し、心に余裕もでてくる。強い雨ながらも仲間がぎゅっと近くに居て、小さな屋根があることで安心している様子がよく分かる。スタッフも全く同じ気持ちだ。

一方、その雨をよけながら、『二本松』からバス停約1区間を歩いてこなければならぬ、お泊り組。神様が味方したのか、晴れ間がのぞき、雨が一気にあがった。太陽の周りには珍しい円形の虹！！雲の切れ間にのぞく夏空に、ヒューっと伸びていく2本の飛行機雲。そんな空の下、田んぼの前で合流したときの、互いの安堵感ったらない。子ども達は歓喜を上げながら走り寄っていった。

合流後、田んぼの様子を見にいく。確実に大きくなりつつある稲。ふえつつある害虫のジャンボタニシ。小さい組は初めて目にする色鮮やかなピンクのジャンボタニシの卵。畔に産み付けられた無数の卵をみんなで丁寧に取り、田んぼへ落として駆除していった。途中、スタッフがカエルを確保。田んぼを管理して下さっているDさんが、川で捕まえた生き物を放している池を覗くと、いやおうでも川遊びへ気持ちちはやる。

ママがいない川、二度目の川に、子ども達は想定以上に軽やかに入水していった。曇り空だが雨もすっかりあがって、蒸し暑さも手伝い、そのどんよりした生暖かい空気が水の中へ子ども達を自然といざなう。

川の水位は前日までの晴天もあり、かなり低く、田植えの時と比べるとはるかに遊びやすい。滝も、水が好きなら登れそうな水量。透明度も増し、魚の泳ぐ姿もよく見える。

KTとKR、YSは、膝までの深さの中州で互いに水かけっこしあう。永遠と笑いながら、ずーずーずーと水かけっこ、のち水泳。RTとTMはずーずーずーと川の虫取り、のち虫取り(笑)。二人は川での虫の取り方を伝授するとすぐに実践。ヤゴ数種、魚などを採取。TKは川沿いの植物も採取していた。小さい組とITもその勢いにひっぱられ、今回は果敢に上流をめざす。小さい組のYIもNも滝へ。YKは一人でずんずん歩き、途中でひっくり返ったりしながらも、TMたちよりもいち早く魚をゲット。MもRNもIRだって、ひるむことなく、連帯をくんで上流へ歩いていくし、仲良しKZ&TSも手をつないでそれを追う。YUとITは、浅瀬で水かけっこをするKTらと合流し、エイサイト。水を嫌いだとか、入るのいやだとかいう子は一人もいない。みな、それぞれが楽しそうに遊び、楽しそうにチャレンジしていた。あまりの盛り上がりで気候のよさに、結局1時間、遊び、大満喫の川遊び。

「きょうは“森”のようちえん、じゃなくて、“川”のようちえん、だね」

「森もすきだから、森と川のようちえん、にしようか」

「海もいきたいから、“海と川と森”のようちえん、がいい」

「それがいい！！」。

★ランチでの出来事

台風の余波で、唯一悩まされたのが強めの風。時折雲の隙間から差し込む夏の日差しをよけるため設置した四足テントも、柱をスタッフが押さえていないと、いつ飛んで行ってしまおうかわからない。小さい組は早々に着替えを済ませたら、弁当をもってテント下に敷いてあるブルーシートにとりあえず座り、重石の役目をしなければならない。子ども達なりに頭をつかい、風上側に陣をとる。角に座る賢いのもいる。後続のお泊り組も準備を終え、テント下にやってきて、ランチ。食べ始め早々、弁当を入れたり、おにぎりを包んでいたラップやビニール袋がまんまと吹き飛ば。とりあえず追いかける、YS、KR。後を追う RT、TM。「知〜らない！」ではなくて、ちゃんと拾いに行く。自分“の”でなくても、自分“たち”のゴミ。「利用したところは、来た時よりもきれいに」、が自然の中で遊ぶ時のルール。「僕たちは年長だからね」という自負。小さい組がその姿をみて、大切なことを学んでいく。

お泊り組は13時のバスに乗り込むことになっており、川遊びで時間を要した分、コンスタントに食べないと間に合わない。がしかし、想定通りいつものペースでダベリング、こぼしたり、なんだかんだで、2人が最後は掻き込み、3人の子が食べることができなかった。3人とも、好物やデザートを当然ながら後に残して、「ママがせっかく作ってくれたのに…」「大好きなやつだったのに…」とスタッフへ訴えるが、しぶしぶすべてを廃棄。3人はとても悲しそうな表情を浮かべながら、半ば強制的に廃棄される弁当の残りを見つめた。この時の子ども達の表情は、私は一生忘れない。ママの愛情を実感し、自分の好きなものを捨てられる気持ち、くやしき、無念、残念さ、ママへの「本当にごめんね」の気持ち…いろんな複雑な思いが交差しているようにみえた。しかし、こういう経験こそ、意外と結果的に子ども達に大きな変化をもたらすことになるし、今回も想像以上にいい結末に結びついていったことはいうまでもない。(この結末は後頁『夕食～捨てたことで得たこと』へ)

台風の風に背中を押されるように、6人のお泊り組は畔を走り抜け、バス停へ向かう。途中、おしっこがしたいと、6人全員で立ちしょん〇〇(汗)。強風にあおられまいと風向きをよみ向きを変える6人のプリプリおしりの後ろ姿、これも忘れられない(笑)。帰りのバスでは、気を取り直し、みな満足げなニコニコ顔。なんだか半日しかたっていないのに、お泊りの力か、皆落ち着いていて、まとまりがある。これならば、と、降車時にはバス代をそれぞれに払ってもらうことに。6人全員が気持ち良い「ありがとうございました」の挨拶とともに、チャリン、チャリンと100円を投げ、これまた大満足でバスを降りた。

★Aのリクエストスイーツ♪

ピンクハウスに帰り着いた頃には、車で戻った小さい組はすでに降園して、しんと静まり返っていた。いよいよ、お泊りの雰囲気が高まる。15時から、お泊り組だけに用意されている、毎年恒例のスペシャルおやつの日だ。

「夕ご飯の前だけれど、大丈夫？」「夕飯入らないってならないかしら？」と、スタッフが心配して尋ねると「大丈夫～！！」の声。おやつは、みんな大好き“アイスクリーム”！それもチョコとバニラの二種類！しかも、チョコチップにマシュマロ、ビスケットにみかん、筒状に巻かれたクッキー、チョココーン、などなどトッピングも盛りだくさん！これは、今日熱でお休みしているAのリクエスト&アイディアだった。遊んでいる時、食べている時、思い出すのは欠席の二人、AとTKのこと。「早くよくなるといいねえ」「がんばってほしいねえ」「二人の分まで楽しいお泊りにしようね」など、思いやる6人。2人には残念だったけれど、6人にとってはまた大切な経験となっていた。

★午睡にならないお話タイム

夜までの活動に備え、休憩時間。とりあえずスタッフのお話。怖い話！？かと思いきやダジャレの話。でも、まだ子ども達には、理解不明(笑)。『ねえねえ、今のお話、ホントに怖い話だった！？』と尋ねると、一瞬みんなの目がドキリと真剣なまなざしに変わる。スタッフは少し間合いを取ってから、「“ねえちゃん”じゃなくて、踏んでたガムが“ねちゃっ、ねちゃっ”ていうのがオチという解説をつける。「な～んだ！」ほっと一安心と「あはは」の笑い声。

「次は、ぼくが話す～」とIT。「じゃあ、次はぼく。」と、次々に交代しながらみんなの前でお話を披露していく6人。そのうち、前の友だちが話したことに続けてお話しを作って語っていく遊びに…。子ども達の想像力はすごい。普段、森ではなかなかできない言葉遊びで、子ども達の力を改めて実感した。昼間なのに少し薄暗い部屋の中で、ごろんごろんしながら、大人なしで盛り上がるお話大会のため、全く昼寝タイムにはならなかった、のオチがついた(笑)。

★いざ、藪こぎへ！

雨と藪対策のための雨具を着た。ピンクハウス前で円陣を組み、「かんばるぞ…」「エイエイ、オ～！」。

森に向かう途中にある、勾配のある草地。ここが藪こぎの舞台。上からみると益々こんもりと茂った雑草。以前からKRが、「その時は、先頭をする！」と言っていた。出発してまもなく、いきなりの難所。自分の背丈よりもはるかに高い藪の海を、泳ぐように両手で分け入って進む。棘があったり、藪が絡まったりして通りにくい所を、二番目のRTがさり気なく手助けしていく。それでも、先頭は大変。子ども達が1m進むには、1分ほどかかる。なんと言っても、道を切り開いていかなければならないのだから。

10mほど下ったあたりだろうか。途中、どちらに進んでよいか分からない程の茂みに出くわした。しかし、子ども達が選んだ道は、より茂みの深い方向で、気を抜いていると完全に前の子の後ろ姿を見失ってしまう。見たことのない虫、大きなバッタ、からまるクモの巣。軍手にはバラが絡まり、包丁葉っぱが頬をかすめる。草の深さと見通しの悪さに、閉塞感さえ漂い、まだなのか、まだなのか、とがむしゃらに前へ進む。

「やっぱり、交代して〜」…これまでのKRなら、そうだったかもしれない。でも、今回のKRは、最後までやり遂げた！見事に藪を過ぎ、竹林を抜けると、「着いた〜っ！」と明るい歓声が青空広場に響いた。

6人とも、よほど楽しかったのだろう。もう一回やりたい！ということになり、青空で休憩するのもつかの間、折り返し、藪こぎをやるということになった。

帰りは、登って戻ることになる。順番を子どもたちで決めることになり、「ぼくが先頭やる！」と、IT。「いいよ」と年長さん。「ぼくが道、教えてあげる」と、KRが2番目。

全員の準備が整い、いよいよ復路、出発！竹林を過ぎ、いよいよ藪らしい入口にさしかかると、ITが「やっぱり、ママに会いたい」と涙。すぐに「代わろうか？」とKR。うなずくIT。涙は出たけれど、気持ちを言葉にできた、IT。その後くじけそうになりながらも、しっかり最後まで歩ききった。往路で先頭をやり遂げ、大きな自信になったKR。勇気と優しさも見せた。

藪をぬけ道路に出た時、安堵感と達成感がそれぞれの胸にじんわり広がった。一方で、空をみあげると、曇天ながら夕刻になっていることが分かる。子ども達も、いよいよ、夜が近づいてきていることが空の色と空気から感じとれているはずだが、だれもそのことを言葉に出す子はいなかった。何を感じているのか、自然と、ピンクハウスへ帰る足取りが早くなった。

★夕食～「捨てた」ことで得たこと

子ども達のリクエストで、今年の夕食はバーベキュー。肉をジュージュー焼きたいということで、ジュージュー音がする、おいしい肉を手に入れ、Dさんの野菜とともに焼く。川遊びや藪こぎと活動が充実していたため、調理実習は最小限に。カレー味のチキンソテーと黒毛和牛の焼肉は大好評で、音と匂いも手伝って、どの子も食が進む。野菜とごはんも順番に、を約束しておかわりもたくさん！野菜たっぷりの焼きそばや、子ども達が大好きのアオサの吸い物もでてきて、ワクワクが止まらない。

今日一日の活動を振り返る。思えば一日長かった。いろいろあったけれど面白かった。でもこれからナイトハイクもある。話が盛り上がり、いつもの悪い癖で箸の動きが鈍くなる。食べこぼしも増えてきて、皿の上も好きなものはなくなっているが、苦手なものが散乱している。20分もたてば、姿勢もくずれ、箸を振り回し、いよいよお茶もこぼした。

今こそ、と、今日のランチを思い出させた。愛情たっぷりで作ってもらった弁当を、残して捨てて、何とも言えない心がとても痛んだ、あの場面。

すると、すーっとKTが話をやめた。淡々とだが、箸を止めることなく、話には耳を傾けながらも、口をはさむことなく、食べ続ける。KTは昼に、いつものペースでゆっくり食べていて、大好きなブドウをすべて食べられず捨てる羽目になっていた。それはとても残念そうに、一粒だ

け何とか握りしめて、残りをスタッフに悲しそうに渡した。

夕食が始まり 40 分が経過。他の子どもたちをしり目に「全部食べた！」と空になった皿をうれしそうな笑顔でみせてきた。「やったね！KT」とハイタッチ。以降、KT はすべての食事で 1 番早く、それもきれいに食べきるようになった。そんな KT の様子を見て、他の子も続く。いい波が、KT から広がっていく。互いに育つ力。

★雨の怖さを思い知る(ナイトハイク)

出発前、残念ながら欠席となった、A と TK のことを思い出す。二人の分まで頑張ってくよう！そして、森は生き物の住処。夜の森に住む生き物はとっても臆病。静かに入らせてもらおう。円陣を組み「エイエイ、オ～！」空はほんのり薄暗く。さっき藪こぎに向かった道と比べると、その暗さがよく感じられる。

川沿いを歩き、青空広場に向かう。ふと、「なんかこわくなってきたね♪」と、TM。声は明るい。本当に怖くなってしまわないように、明るく話しかけているようにもみえる。暗闇にまだ慣れていない目では、森の木々も黒い闇。「ねえ、手つなごう。」と、TM。「いいよ。どうして？」と KT。「ちょっとこわくなった」と、素直に気持ちを表す TM。

ピンクハウスを出て 10 分ほど歩くと、20:10。青空広場につくころにはすっかり夜。すると、みんな手を繋ぎ始めた。繋いだ手から伝わる、友だちのぬくもり…。“みんながいるから大丈夫”そんな気持ちを確かめて、森の奥へ出発！

「野ウサギに会えるかな？」「アナグマいるかな？」小声でそんな話をしながら進む。懐中電灯が時折足元を照らす以外、真っ暗な闇。それでも、RTとKTは、一人ずつ歩くことを提案した。ではこの先のひだまり広場から、一人ずつ歩こうか、と話していた矢先、広場に着いた途端に大粒の雨が降り出した。雷鳴さえないが、葉をたたきつけるように大きな音とともに。暗闇で手元がみえないので、各自探り当てて雨具の帽子を大急ぎでかぶる。その先を懐中電灯で照らすと、通路をふさぐように、大きな木が倒れ、たくさんの枝が横たわっていた。今年の雨は、やはり尋常ではない。フィールドでは数か所でがけ崩れが確認されていて、活動エリアにも影響がでていた。そこへきて、この大雨。今年は残念ながら、安全を第一に、一人歩きは断念し、全員で暗闇の中横たわる枝をパキパキ折って速足で進んだ。こんな時、野ウサギやアナグマ、他の森の生き物たちは、どんな風に身を守っているのだろう。真っ暗で、雨がふって、崖がくずれ、葉が風にゴウゴウと音を立てている森。自分たちがいつも見ている森とは全く違う気配に、だれもが気を引き締めて、足取りをしっかりと前の子の背中を追う。

西本願寺の裏の小道に出ると、うっすらと住宅街からもれる明かりが見えてきた。「わぁ、明るい！」そこだって出発前の場所よりはもちろん暗い。けれど、雨の降る森の暗さに比べたら、断然明るい。そして、何より気持ちがホッと明るくなったのだろう。雨はさらに勢いを増して、子ども達の体に雨具の上からたたきつけるように降り注いでいる。雨の恐ろしさを肌身で感じたナイトハイクだった。ピンクハウスの明かりが見えたときは、心からほっとし、ようやくみんなの顔に笑顔が表れた。

いくら体力のある 6 人でも、この内容と天候に、十分疲れているはずである。シャワーをあ

びて、歯磨きした順に、布団の上へ。21 時になり早々に消灯。豆電球1つ、外には雨あがりのカエルの鳴き声。子ども達が大好きなカエルの鳴き声の子守唄に「おやすみなさい」とふすまをしめた。

6 人だけの部屋。しばらくは全員でおしゃべりしていた。さみしさや不安があるわけでもなく、落ち着いてはいるが、やっぱりみんなと寝ることのワクワクと、ママがいないドキドキもあるのか。5 分様子を見て、部屋を覗き「寝なくていいけれど、お口チャックでお願い」とだけ告げ、静まり返った部屋を確認し、再びふすまを閉める。しばらくすると、また小さな声でこそこそ話。また5分様子を見て、部屋を再び覗き込み「お口チャックできない人いるのかな」と告げ、再び静まり返った部屋を確認し、三度目のふすまを閉める。

更に 5 分後、部屋をそっとのぞくと、6 人ともぐっすりの寝息。お休みの歌もなし(笑)、おとぎ話もなし(笑)、毎年恒例のマッサージやさすりもなし(笑)。全員がそろって、男らしく？就寝した。

平成 27年 7月 11日(土) お泊り保育 2日目

★朝食タイム

6時半に起床。みな寝起きもよく、7時までゴロゴロしながらゆったりとした時間を楽しむ。布団の片づけは、朝食前で寝起きということもあり、男6人でもなかなか力のいる作業だった。出すより入れるのが難しい…苦勞する場面もあったが、力を合わせてやり遂げる。なんだか1日しかたっていないのに、見違えるほどのまとまりとたくましが備わった気がする。

片づけと洗顔後は、雨模様と崖くずれの件もあり、森への散歩は避け、雨をみながら、子ども達の希望でシャボン玉をピンクハウスの前で楽しんだ。寝起きにこんなに盛り上がるものか、と子ども達のワクワクテンションの高さをうかがい知った。

朝食はピンクハウスのテラスで雨音を聞きながら。スクランブルエッグにハムステーキ、コアラパンとコーンスープ、Dさんのフレッシュ野菜のサラダ。昨夜、かなりの食事を食べたのに、スープだ、パンだ、とおかわりに手がのびる。今年の6人の強さはこんなところにあるのかもしれない。朝から全員本当によく食べる。「ホテルのごはんみたい」と言いつつも、「いつも僕のうちはこういうごはんだよ、いっぱい食べるよ」「え？ぼくのうちもだよ」「ぼくんちも同じ」…とみながよくわからない虚勢をはりながらの男らしい朝食(笑)。話題は、カブトムシだ、ヤゴだ、オタマジャクシ、だと朝から話が尽きない。まあいいか(汗)。おいしく楽しく、しっかり食べられれば(笑)…それでよい。

★「仲間」との話し合い

朝食をとりながら、今日の活動についての話し合いをした。何を隠そう、このメンバーで話し合いをしてまともな結論がでたことは、今まで記憶にない。だいたいケンカ、強引な多数決、決まっても納得いかずに引きずる、少数意見は取り上げない、そのうち話し合いも頓挫、何をしていたのかもわからない、その場から逃亡…など(笑)。でも、この日は全く様相が違った。一人ひとりが意見をのべ、理由を述べる。仲間(すでに友だち、というより仲間と自分たちでいうようになっていた)の立場を尊重する場面も多々あった。

結局、子ども達だけの話し合いで「川遊び」に決まった。風車の丘に登山に出かけたかったYSとITは、外の天気を見て納得ができたし、川遊びをしたい仲間の気持ちにも共感できる、また、天気のいい日に絶対に行こうねという声かけがうれしかったし、みんなで楽しむことが一番、という結論に落ち着いたことは何よりの成長だ。

川遊びをしたかったRTとKTは、昨日見つけたヤゴ以外にも種類を確かめたいとか、とってきたヤゴ用の餌や環境を整えてやらないと死んでしまうし、最悪、今観察用に飼育しているオタマジャクシがヤゴに食べられる危険もあることを、丁寧に仲間たちに訴えて、票を集めた。

絵や字を描きたい、クラブをしたいといっていたTMとKRに対しては、KTが、天気が悪くなった時のプログラムにしておこう、川遊びから早めに帰ってくるようになったとき用にも、と提案。また登山を諦めたYSが、「川遊びでの体験をもとに、模造紙に大きな川の生き物マップ

を作れば、絵も字も描けるよ」と TM たちにアドバイス。二人も自分の気持ち優先でなく、みんなで少しずつ妥協して楽しく過ごすことを選び、納得して、いざ出発となった。

★買いものに挑戦

そんな雰囲気だから、みんな心地よいし、楽しいに決まっている。いつの間にか雨も止み、気が付けば、時々木漏れ日の絶好の川遊び日和。ドライブ中も、歌なんぞ口ずさむ男子(笑)。なんと仲の良い、いい仲間になったことだろう。全員が目的や内容でなく、仲間という時間を楽しんでいる。活動時間を充実させるため、当初予定していたピンクハウスでの昼食は、子ども達のアイデアからパン屋で好きなパンを2つずつ買って現地で食べることになり、土曜の昼食前の時間帯に、人気のパン屋に立ち寄ることとなった。しかし、この日のスタッフは全くもって心配事などなかった。きっと今の6人なら、混雑してようがまとまって行動し、礼儀正しく挨拶もでき、マナーを守って買い物ができる、と。

案の定、土曜の店内はかなり混雑していて、子どもが触りたくなるような設備や試食の誘惑がいっぱい。冒頭、飲用水サーバーを見つけた IT が、どうしても飲みたいという。遠くで見ていた店員のちょっと冷たく厳しい視線を感じたが、いい機会だからとチャレンジさせることにした。「森でいつもやっているのと一緒に。店は混んでいるし、紙コップは一度きりでもったいないから、一杯をみんなで分けて飲んでね」。このシチュエーションでこぼしてはまずい、と IT のフォローに RT が力を貸してくれ、みんなの一杯を取り、ゆっくり順番に回し飲みした。その様子を見ていた店員は感心し、以来子ども達をみる目が変わった。

図に乗ったスタッフは、支払いや領収書請求、景品交換などもやりたがる KT と KR にチャレンジさせると、店員たちは腰を低くさげてやさしく子ども達に対応してくれた。最後は気持ちよく、「ありがとうございました！！」と店員に全員で大きな声でお礼をいい、再び川へ向かう旅路についた。

こんなことを積み重ねていくと、本当に6人で過ごす時間が楽しく愛おしくなってくる。今日で終わりなんて嫌だな、ママたちに頼んで今夜も泊まろうと話し出す。頼まれごとの食材買い出しもきりぎり館で難なくやってのけた子ども達。この2日間で、本当に成長し進化し続けていると感じた。

★ヤゴの餌を取りに

今日の川遊びは昨日と違い、6人だけ。しかし、雲行きがあやしい。川遊びの安全管理の話を移動中の車でしてきた。雨が降っていないなくても、上流域の天気を気にしておくこと、絶対に靴は脱がないこと。寒さ対策もあるから、風を通さない雨具を着用しておくことなど。皆、しっかり聞いていた。

今日の目的ははっきりしている。ヤゴを集めること、ヤゴの餌をとって帰ること。網と採取ケースを人数分用意して、いざ川へ入る。昨日よりも水量は減り、虫取りには適している。足で、川上側から川脇の川草を蹴飛ばす。川下側には網を構えておき、振動で川草から離れた生き

物を確保する。カエルやヤゴ、魚など、たくさんの生き物が採取できた。2 日間で本当にたくましくなった 6 人。必死になって 6 人で黙々と挑戦している姿は、2 日前とはみな別人だ。採取したときの歓喜、駆け寄り、ともに喜ぶ歓声。今日もなかなか川から上がってこない。こんな仲間同士のつながりも、今までの彼らとは全く違う。

★最後の食事

1 時間ほどして川からあがり、慣れた手つきで片づけや着替えをする。途中雨がふってきたので、車に逃げ込んだが、それもお手の物だ。いよいよ雨脚が強くなったのでお昼を食べる場所をどうしようかと考えていたところ、吉田の物産館のパーゴラで食べようということになり、移動。

吉田の物産館についたころには、ザーザーぶりの大雨になっていた。お気に入りのパン二つ、パックジュース、旬のプラムとブルーベリー、じゃじゃ豆のおやつなど、子ども達の希望のものが盛りだくさんのランチ。食べながら、2 日間の振り返りをした。「〇〇が楽しかった」「××がうれしかった」その中には、「もう 1 週間泊まりたい」「また秋にしたい。」お泊りが終わることを惜しむ声がたくさんあがった。その中に、「次回は、TK と A ちゃんも一緒にできるといいね」「そうだね」「それがいいね」…もちろん、そんな優しい声があがるのは、今の 6 人なら自然なことだろう。

今日も再び時間がなくてすべて食べられなかったランチ、でも今日は捨てずに全部持って帰ろう。中には、うっかり落としてしまったパンも丁寧に拾って食べる姿も見られた。残った分をそれぞれが大事そうに懐にいれた。

予定よりも 10 分遅れで、ママたちの待つ解散場所へ。直前まで離れがたかった仲間やスタッフたちをよそに、こちらなど振り向きもせずママや兄弟に猛進していく 6 人の子どもたち(笑)。直後、さっそくママに甘えてぐずったり、すねたりしている子もいる。やさしく、かっこよく、あんなにも頼もしく見えた 6 人だったけれど、やっぱり、いろいろ背伸びし、我慢して、がんばっていたのだろう。でもこの 2 日間は夢でも幻でもない。彼らが彼らの力ですごしたかけがえのない 2 日間。確実に彼らの心と体にその経験は刷り込まれ、強い自信となり、糧になるはずだ。これからの森での日々でも更に進化を遂げるに違いない。

6 人のやんちゃで元気でおちゃめな子ども達。まるで家族や兄弟と過ごしているような、本当にステキな時間だったね。またいつか、次は A と TK も一緒にお泊りしようね。たくさんの感動を今年もありがとう。

完